

## はじめに ー 世博記念フォーラムとワークショップ開催について

「真夏の季節に何故イベントをやるの？」という半ば脅かしに近い警告を聞きながら、昨年の日蝕フォーラムに続いて今年も上海でフォーラムを企画することになった。しかも無錫と張家界での連続ワークショップも合わせて、都合中国の3拠点を走破しての開催である。

計画のきっかけは、QSIC2010の案内が仕掛け人の香港大学のTse先生からあり、その開催場所が張家界であったこと。何と、かつてわれわれが中国でのInternational CASE Symposium (in 長沙)のあとのExcursionで訪問した「張家界 ZhangJiaJie」ではありませんか！ 思わずあの絶景が臉の裏側に甦ってきた(2009年10月、岸田さんのメールから)。当時は熊谷さん、荒木さんも参加されたようで、関心度合いを聞いてみると現在どのように変わっているのか是非実際に訪問したいとの感触であった。

上海支部でメンバーに計画を打ち上げると、東さんから上海でフォーラムを、しかも今度は上海オフショアフォーラム・コミュニテイと共同開催にしようとか、世界博の開催中でもあり、研究成果を会場で展示しているのでうまく行けば見学も可能だ。またワークショップをやるなら政府の優遇策を活用して起業した増満さんが協力してくれるので、「無錫ワークショップ」もやろうと決定した。

計画の概要を連休明けに公開すると、日本から10名近い人から参加の表明があり、その中でもロックグループ「頭脳警察」のPANTAさんがオブザーバで見えることになり、異色の存在になりそうだった。可能なら1-2曲余興でお願いできたらかもと期待していた。

「上海フォーラム」は「無形労働とソフトウェア技術移転」をテーマに開催し、日本から10名、地元から11名の参加があり、無形労働、OSS、技術移転に関して話題講演と引き続いての討論を行った。その中で「もぐら」経営者の新井さんの「創造性」の話をつきかけに、オブザーバ参加のPANTAさんを巻き込んで議論が拡大した。

「無錫ワークショップ」は「次世代のオフショア」をテーマに、日本から11名、中国から10名の参加があり、O-Parkの紹介や街作り、OSS、コミュニテイ、ビジネス、グローバルプロジェクト管理を取り上げ、話題提供を受けながら、討論を行った。その中で、地元でRubyをコアに事業を展開している若い経営者(BAO)の話や、若い世代2人のプロジェクト経験のコラボレーション発表があったりして刺激に富んだワークショップになった。

無錫最後の夜は、PANTAさんのロックコンサートで盛り上がった。ローカルアレンジメントの増満さんの手配で、ライブハウスを約2時間独占して、本格的なりサイタルになった。戦うロック歌手として年齢を感じさせないPANTAさんの歌と詩に魅了された夜でした。

「張家界ワークショップ」は「日中韓印の技術交流を考える」として、これからの技術交流をテーマにした。参加者は日本から9名、中国から4名でオブザーバでの参加者とともに、風光明媚な景色を楽しみ、湖南料理を味わい、奇岩や山を見ながら、オープンな議論が交わされた。

世博記念として3つの連続イベントを開催して、個別の会場で参加された方、また連続で参加された方々の討論や発表での貢献に感謝するとともに、裏方で運営を支えていただいた東さん、増満さん、魯さんに合わせて感謝します。

世話人を代表して、 杉田義明